

CUBASE

VST

VSTプラグインエフェクト

5

PC
VERSION

Steinberg

本書の記載事項は、Steinberg Soft- und Hardware GmbH 社および株式会社スタインバーグ・ジャパンによって予告なしに変更されることがあり、同社は記載内容に対する責任を負いません。本書で取り扱われているソフトウェアは、ライセンス契約に基づいて供与されるもので、ソフトウェアの複製は、ライセンス契約の範囲内でのみ許可されます（バックアップ・コピー）。Steinberg Soft- und Hardware GmbH 社および株式会社スタインバーグ・ジャパンの書面による承諾がない限り、目的や形式の如何に関わらず、本書のいかなる部分も記録、複製、翻訳することは禁じられています。

本書に記載されている製品名および会社名は、全て各社の商標および登録商標です。

Original English Edition :
© Steinberg Soft- und Hardware GmbH, 2000.

Japanese Edition :
© Steinberg Japan Inc., 2000.
All rights reserved.

はじめに

Cubase VST には、数多くの VST プラグインエフェクトが付属しています。ここでは、その付属エフェクトのパラメーターについて説明します。エフェクトの設定などの詳細については、『詳細 - オーディオのミキシングとエフェクトの使用』をご参照ください。

VST 2.0 について

VST プラグイン規格のバージョン2.0により、VST2.0プラグインはホストのプログラム（ここではCubase VST）からMIDIを受信することができます。この機能のエフェクトへの活用としては、テンポベースのディレイ、ピッチシフターやハーモナイザーのMIDIコントロールなどがあります。

- MIDIタイミング情報は、MIDIタイミング情報を要求するVST2.0プラグインに対して自動的に送信されます。

Earlier VST PlugIns フォルダについて

バージョン5では、付属のVSTプラグインエフェクトが一新されています。旧バージョンを使用して作成された曲との互換性を保つため、従来のVSTプラグインエフェクトの標準セットも付属しています。これらは、エフェクトのメニューの "Earlier VST PlugIns" サブメニューにあります。これらのエフェクトのパラメーターについては、『VSTプラグインエフェクト（旧）』をご参照ください。

目次

- Dynamics - [4ページ参照](#)
- Chorus - [5ページ参照](#)
- DoubleDelay - [6ページ参照](#)
- ModDelay - [8ページ参照](#)
- Flanger - [9ページ参照](#)
- Symphonic - [11ページ参照](#)
- Phaser - [13ページ参照](#)
- Distortion - [15ページ参照](#)
- Overdrive - [17ページ参照](#)
- Chopper2 - [18ページ参照](#)
- Reverb - [20ページ参照](#)
- Reverb 32 - [21ページ参照](#)
- Metalizer2 - [22ページ参照](#)
- Tranceformer2 - [24ページ参照](#)
- Karlette - [26ページ参照](#)

Dynamics

Dynamicsは、チャンネル設定ウィンドウにあるVSTダイナミクスパネルのプラグインバージョンです。このDynamicsプラグインにより、チャンネル設定ウィンドウにVSTダイナミクスパネルを持たない、グループ/Rewire/VSTインストゥルメントチャンネルのダイナミックプロセッシングが行えます。また、Dynamicsプラグインは、マスターエフェクトとして使用することもできます。Dynamicsプラグインは、AutoGate、Compress、Limitの3種類のプロセッサーを使用して、ほとんどの一般的なダイナミックプロセッシングを実現します。

● Dynamicsプラグインのパラメーターの説明については、『詳細 - オーディオのミキシングとエフェクトの使用』をご参照ください。

- VSTダイナミクスパネルでは、さらにAutoLevel、SoftClipの2種類のプロセッサーを使用することができます。
技術的な理由から、これらはDynamicsプラグインにはありません。
- Dynamicsプラグインには、VSTダイナミクスパネルにはないルーティング機能があります。これについては、以下に説明します。

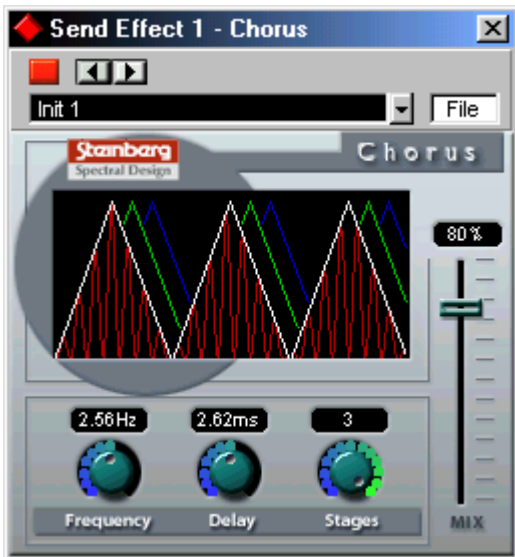
Routingセクション



"Routing"セクションでは、3種類のプロセッサーの信号経路の順序を設定することができます。これにより、プロセッサーの順序を変更した場合の結果を素早く確認することができ、有効な設定を見つけることができます。個々のプロセッサーレベルの横に番号が付いています。この番号が、"Routing"セクションの信号経路を示す表示に使用されます。

- 1-2-3 (Compress-Gate-Limit)
- 2-1-3 (Gate-Compress-Limit)
- 1-3-2 (Compress-Limit-Gate)

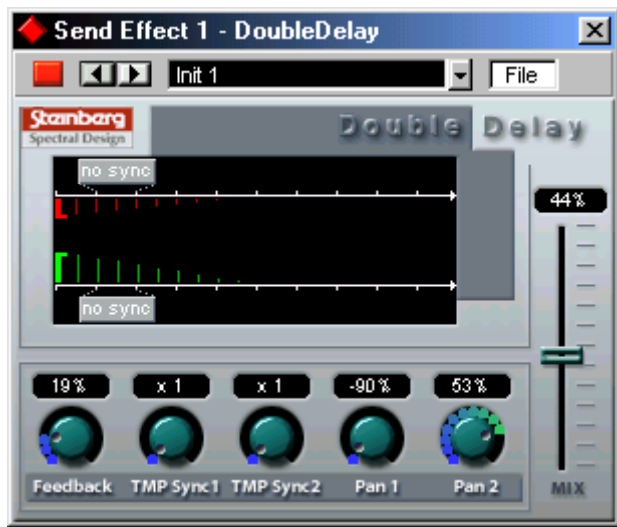
Chorus



Chorusは、信号に短いディレイを加え、ディレイ信号のピッチを変調し、「ダプリング」効果を作り出します。

パラメーター	値	説明
MIX	0～100%	ドライ信号とエフェクト信号のレベルバランスを設定します。Chorusをセンドエフェクトとして使用する場合、このフェーダーを最大に設定し、ドライ信号とエフェクト信号のバランスはセンドレベルでコントロールします。
Freq	0～5Hz	変調率を設定します。
Delay	0～5ms	コーラスエフェクトの深さを設定します。
Stages	1～3	1つまたは2つのディレイを追加し、より厚いマルチレイヤーのコーラスエフェクトを作り出します。

DoubleDelay



グラフィック表示内の"no sync"をクリックすると、対応するディレイの設定値のポップアップメニューが表示されます。

- "no sync"に設定した場合、ディレイが生じませんので注意してください。

DoubleDelayは、2つの異なるテンポベースのディレイを作り出します。Cubase VSTで設定したテンポに自動的に従います。パラメーターは、下記の通りです。

パラメーター	値	説明
MIX	0～100%	ドライ信号とエフェクト信号のレベルバランスを設定します。DoubleDelay をセンドエフェクトとして使用する 場合、このフェーダーを最大に設定し、ドライ信号とエフェクト信号のバランスはセンドレベルでコントロールします。
Feedback	0～100%	両方の遅延に対して、繰り返し回数を設定します。
Tempo Sync ポップアップ 1	no sync（同期オフ）, 1/1～1/32（4分音符～ 32分音符）, 1/1～1/32 Triplet（3連4分音符～ 3連32分音符）, 1/1～ 1/32 Dotted（付点4分 音符～付点32分音符）	上の"no sync"をクリックすると、1番目のディレイの値を設定するためのポップアップメニューが表示されます。設定した音符単位でテンポに「同期」します。
Tempo Sync ポップアップ 2	上記と同様	下の"no sync"をクリックすると、2番目のディレイの値を設定するためのポップアップメニューが表示されます。

パラメーター	値	説明
TMP Sync1	x1～x10	1 番目のディレイの設定値に対する倍率を選択して、ディレイタイムを設定します。
TMP Sync2	x1～x10	2 番目のディレイの設定値に対する倍率を選択して、ディレイタイムを設定します。
Pan1	-100～100%	1 番目のディレイのステレオ定位を設定します。
Pan2	-100～100%	2 番目のディレイのステレオ定位を設定します。

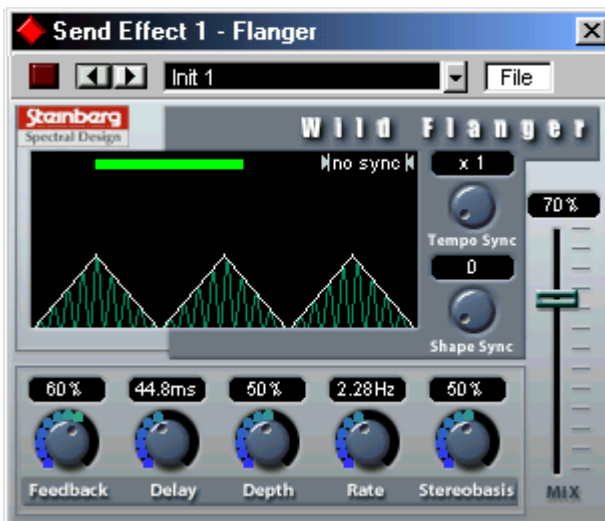
ModDelay



ModDelay は、テンポベースでも、ディレイタイムを自由に設定することもできます。ディレイのリピートを変調することもできます。パラメーターは、下記の通りです。

パラメーター	値	説明
MIX	0～100%	ドライ信号とエフェクト信号のレベルバランスを設定します。ModDelay を SEND エフェクトとして使用する場合、このフェーダーを最大に設定し、ドライ信号とエフェクト信号のバランスは SEND レベルでコントロールします。
Feedback	0～100%	ディレイのリピート回数を設定します。
Tempo Sync ポップアップ	no sync（同期オフ）, 1/1～1/32（4分音符～32分音符）, 1/1～1/32 Triplet（3連4分音符～3連32分音符）, 1/1～1/32 Dotted（付点4分音符～付点32分音符）	"no sync"をクリックすると、ディレイの値を設定するためのポップアップメニューが表示されます。設定した音符単位でテンポに「同期」します。
TMP Sync	x1～x10	ディレイの設定値に対する倍率を選択して、ディレイタイムを設定します。
Time	0～5000ms	"no sync"を設定している場合に、ディレイタイムを設定します。
Delay Mod	0～100%	ディレイエフェクトのピッチの変調率を設定します。

Flanger

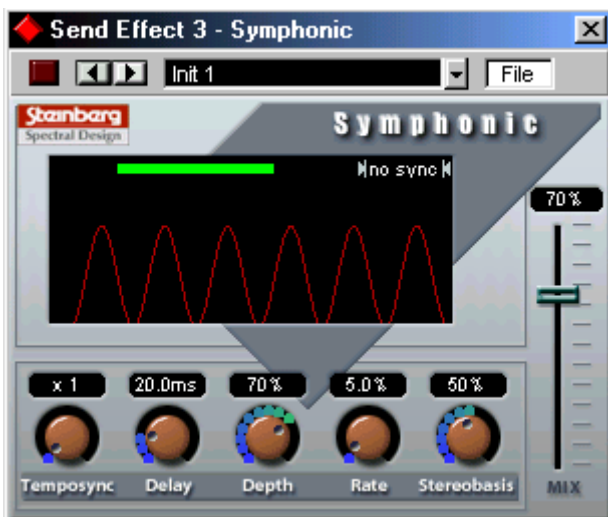


Wild Flangerは、ステレオエンハンスメント機能を持つ伝統的なフランジャーエフェクトです。パラメーターは、下記の通りです。

パラメーター	値	説明
MIX	0～100%	ドライ信号とエフェクト信号のレベルバランスを設定します。Wild Flangerをセンドエフェクトとして使用する場合、このフェーダーを最大に設定し、ドライ信号とエフェクト信号のバランスはセンドレベルでコントロールします。
Tempo Sync ポップアップ	no sync（同期オフ）、 1/1～1/32（4分音符～32分音符）、 1/1～1/32 Triplet（3連4分音符～3連32分音符）、 1/1～1/32 Dotted（付点4分音符～付点32分音符）	"no sync" をクリックすると、テンポの同期を設定するためのポップアップメニューが表示されます。設定した音符単位でテンポに「同期」します。
Tempo Sync	x1～x10	テンポの同期の設定値に対する倍率を選択して、ディレイタイムを設定します。
Shape Sync	1～16	エフェクトのトーンを変える変調波形を設定します。
Feedback	0～100%	フランジャーエフェクトの特性を決定します。設定値を高くすると、より「金属的」に響くスィープを作り出します。

パラメーター	値	説明
Rate	0～5Hz	変調スィープの速度を設定します。
Depth	0～100%	変調スィープの深さを設定します。
Delay	0～100ms	このパラメーターは、設定したディレイタイムを調節することによって、変調スィープの周波数帯域を決定します。
Stereobasis	0～100%	ステレオ効果の深さを設定します。0% でモノラル、50%で元のステレオ、100%でステレオエンハンスメントが最大になります。

Symphonic

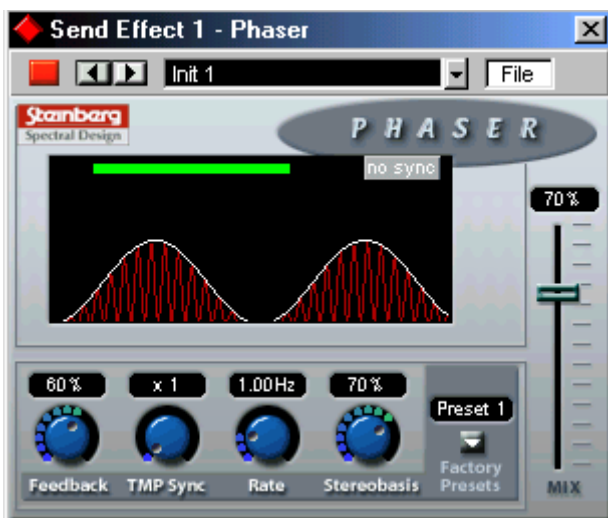


Symphonic は、ステレオエンハンスメント、オートパン、コーラス/フランジャーを組み合わせたものです。オートパンは、テンポに同期させることができます。最良の結果を得るためには、Symphonic をステレオ信号に使用してください。

パラメーター	値	説明
MIX	0～100%	ドライ信号とエフェクト信号のレベルバランスを設定します。Symphonic をセンドエフェクトとして使用する場合は、このフェーダーを最大に設定し、ドライ信号とエフェクト信号のバランスはセンドレベルでコントロールします。
Delay	0～100ms	Symphonic エフェクトのディレイタイムを設定します。
Depth	0～100%	Symphonic エフェクトの深さを設定します。
Rate	0～100%	Symphonic エフェクトの変調率を設定します。
Temposync ノブ	x1～x10	テンポの同期の設定値に対する倍率を選択して、ディレイタイムを設定します。
Tempo Sync ポップアップ	no sync（同期オフ）、 1/1～1/32（4分音符～ 32分音符）、1/1～1/32 Triplet（3連4分音符～ 3連32分音符）、1/1～ 1/32 Dotted（付点4分 音符～付点32分音符）	"no sync" をクリックすると、テンポの同期を設定するためのポップアップメニューが表示されます。設定した音符単位でテンポに「同期」します。

パラメーター	値	説明
Stereobasis	0～100%	ステレオ効果の深さを設定します。0%でモノラル、50%で元のステレオ、100%でステレオエンハンスメントが最大になります。

Phaser



Phaserは、フェーザーの特徴である伝統的な「シュー」という音を作り出します。信号の位相をずらし、それを元の信号に再び加えることによって、周波数を部分的にキャンセルします。

パラメーター	値	説明
MIX	0～100%	ドライ信号とエフェクト信号のレベルバランスを設定します。PhaserをSENDエフェクトとして使用する場合、このフェーダーを最大に設定し、ドライ信号とエフェクト信号のバランスはSENDレベルでコントロールします。
Feedback	0～100%	フィードバックの量を設定します。値を大きくすると、より「シャープ」に響くサウンドを作り出します。
TMP Sync	x1～x10	テンポの同期の設定値に対する倍率を選択して、ディレイタイムを設定します。
Rate	0～6Hz	"no sync"を設定している場合に、フェーザーエフェクトの変調率を設定します。
Tempo Sync ポップアップ	no sync（同期オフ） 、1/1～1/32（4分音符～32分音符） 、1/1～1/32 Triplet（3連4分音符～3連32分音符） 、1/1～1/32 Dotted（付点4分音符～付点32分音符）	"no sync"をクリックすると、テンポの同期を設定するためのポップアップメニューが表示されます。設定した音符単位でテンポに「同期」します。

パラメーター	値	説明
Stereobasis	0～100%	ステレオ効果の深さを設定します。0%でモノラル、50%で元のステレオ、100%でステレオエンハンスメントが最大になります。

Distortion



Distortion は、ソフトな「クランチ」から強力なディストーションまで、あらゆる歪みを作り出すことができます。Distortion には、プリセットが用意されています。これらのプリセットは、パラメーターの設定が保存されているだけでなく、異なった基本アルゴリズムが使用されています。各プリセット「モデル」の基本的特徴は、その名称で示されています。パラメーターは、下記の通りです。

パラメーター	値	説明
Input	-24 ～0dB	入力レベルを設定します。このパラメーターは、VST センドエフェクトのウィンドウのマスターレベルスライダーでコントロールすることもできます。Distortion をインサートエフェクトとして使用する場合、このフェーダーを使用して入力レベルのブースト/カットを行います。
Output	-24 ～0dB	出力レベルを設定します。歪みによって高調波が発生するため、処理された信号のレベルが増加します。このフェーダーを使用して出力レベルを調整します。
SHAPES	リニア、 ノンリニア 1、 ノンリニア 2	Shape パラメーターは、Distortion によって、入力信号がどの程度影響されるのかを決定します。「ノンリニア 2」が、最も強い歪みを作り出します。
Contour	0 ～100%	これは選択型のローパスフィルターで、歪みのトーンの性質を設定します。
Drive	0 ～100%	歪みの量を設定します。

パラメーター	値	説明
Factory Presets	Soft, Crunchy, Dirty, Wracky, Evil	5種類のプリセットから1つを選択します。選択したプリセットを元にパラメーターを設定します。

Overdrive



Overdriveは、歪みを作るエフェクトで、ギターアンプの音をシミュレートします。

パラメーター	値	説明
Input	-15～+15dB	入力レベルを設定します。このパラメーターは、VST センドエフェクトのウィンドウのマスターレベルスライダーでコントロールすることもできます。Overdriveをインサートエフェクトとして使用する場合、このフェーダーを使用して入力レベルのブースト/カットを行います。
Output	-15～+15dB	出力レベルを設定します。歪みによって高調波が発生するため、処理された信号のレベルが増加します。このフェーダーを使用して出力レベルを調整します。
Bass	-15～+15dB	低周波数帯のトーンをコントロールし、15 dB のブースト/カットを行います。
Mid	-15～+15dB	中域の周波数帯のトーンをコントロールし、15 dB のブースト/カットを行います。
Hi	-15～+15dB	高周波数帯のトーンをコントロールし、15 dB のブースト/カットを行います。
Drive	0～100%	オーバードライブの量を設定します。
Speaker simulation	オン/オフ	スピーカーキャビネットの音をシミュレートします。

Chopper2



Chopper2は、トレモロとオートパンを組み合わせたものです。異なった波形を使用し、テンポの同期または手動で変調速度を設定して、レベル（トレモロ）と左右のステレオ定位（パン）を変調します。パラメーターは、下記の通りです。

パラメーター	値	説明
Mix	0～100%	ドライ信号とエフェクト信号のレベルバランスを設定します。Chopperをセンドエフェクトとして使用する場合、このフェーダーを最大に設定し、ドライ信号とエフェクト信号のバランスはセンドレベルでコントロールします。
Input	0～100%	入力レベルを設定します。このパラメーターは、VST センドエフェクトのウィンドウのマスターレベルスライダーでコントロールすることもできます。Chopperをインサートエフェクトとして使用する場合、このフェーダーを使用して入力レベルのブースト/カットを行います。
Output	0～100%	出力レベルを設定します。
Speed	0～50Hz	このノブは、Chopperエフェクトの変調率を設定します。"Sync"ボタンがオフの場合に、周波数の値を設定できます。"Sync"ボタンがオンの場合には、このノブでテンポの同期に設定する音符を選択します（次ページ参照）。

パラメーター	値	説明
Tempo Sync ポップアップ	no sync（同期オフ）, 1/1～1/32 （4分音符～32分 音符）, 1/1～1/32 Triplet（3連4分 音符～3連32分音 符）, 1/1～1/32 Dotted（付点4分 音符～付点32分音 符）	"Sync" ボタンをクリックすると点灯し、テンポの同期がオンになります。テンポの同期を設定するためのポップアップメニューを表示させるには、"Speed" ノブの上の欄をクリックします。設定した音符単位でテンポに「同期」します。
Sync ボタン	オン/オフ	テンポの同期のオン/オフを切り替えます。
Stereo/Mono ボタン	Stereo/Mono	これを Stereo に設定すると、レベルの変調と同期して、信号が左右にパンします。
波形ボタン	サイン波, 矩形波, ノコギリ波, 逆ノ コギリ波, 三角波	変調波形を設定します。
Depth	0～100%	Chopper の変調の深さを設定します。

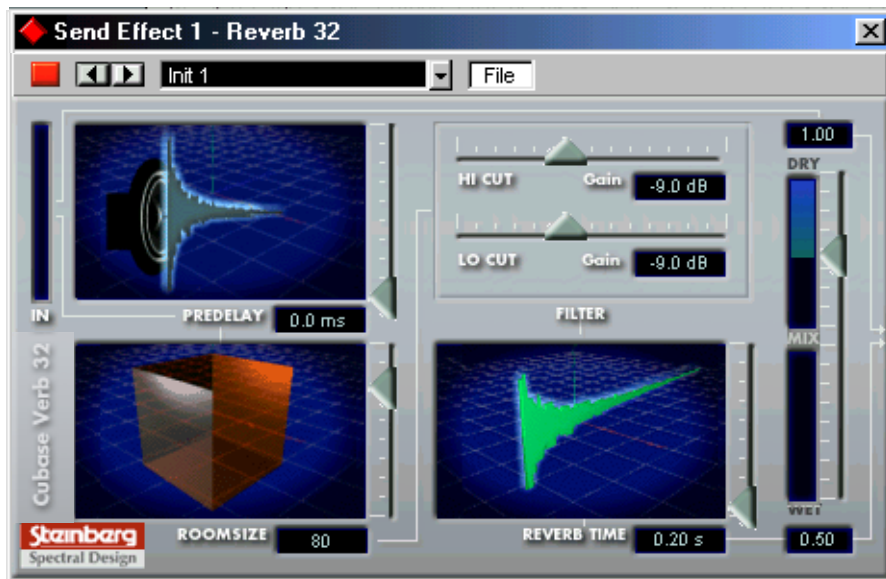
Reverb



Reverb は、サウンドに空間や雰囲気を与えます。Reverb には、下記のパラメーターがあります。

パラメーター	値	説明
MIX	0～100%	ドライ信号とエフェクト信号のレベルバランスを設定します。Reverbをセンドエフェクトとして使用する場合、このフェーダーを最大に設定し、ドライ信号とエフェクト信号のバランスはセンドレベルでコントロールします。
Roomsize	0～100%	シミュレートされる部屋のサイズを設定します。
Predelay	0～100%	このパラメーターは、直接音とリバーブエフェクトの出力のディレイを設定します。リバーブの前の短いプリディレイは、音を不鮮明にするリバーブの「散乱」を減少させ、リバーブエフェクトがより自然に響くようにします。
Reverb Time	0～100%	このパラメーターは、リバーブエフェクトの長さを設定します。
Damp	0～100%	このパラメーターは、高い周波数を「ダンプ」し、リバーブサウンドがより丸くなめらかに響くようにします。

Reverb 32（Cubase VST/32のみ）



Reverb 32は、なめらかで密度の高いリバーブエフェクトを実現します。Reverb 32には、下記のパラメーターがあります。

パラメーター	値	説明
ROOMSIZE	20～100	シミュレートされる部屋のサイズを設定します。
PREDELAY	0～100ms	このパラメーターは、直接音とリバーブエフェクトの出力のディレイを設定します。リバーブの前の短いプリディレイは、音を不鮮明にするリバーブの「散乱」を減少させ、リバーブエフェクトがより自然に響くようにします。
REVERB TIME	0.2s～Forever	このパラメーターは、リバーブタイムの長さを設定します。
FILTER HI CUT	-15～0dB	リバーブの高周波数帯をフィルターでカットし、リバーブがよりソフトに響くようにします。
FILTER LO CUT	-15～0dB	リバーブの低周波数帯をフィルタでカットし、不快な低周波数の音を弱めることができます。
MIX	DRY/WET	ドライ信号とエフェクト（ウェット）信号のレベルバランスを設定します。Reverb 32をSENDエフェクトとして使用する場合、このフェーダーを最大に設定し、ドライ信号とエフェクト信号のバランスはSENDレベルでコントロールします。

Metalizer2

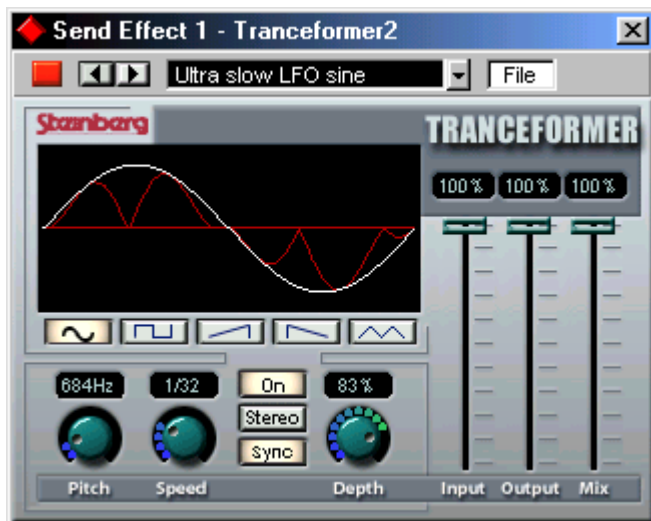


Metalizer は、可変周波数フィルターを通してオーディオ信号を出力します。可変周波数フィルターは、テンポの同期または変調時間やフィードバックでコントロールします。パラメーターは、下記の通りです。

パラメーター 値		説明
Mix	0～100%	ドライ信号とエフェクト（ウェット）信号のレベルバランスを設定します。Metalizer を SEND エフェクトとして使用する場合、このフェーダーを最大に設定し、ドライ信号とエフェクト信号のバランスは SEND レベルでコントロールします。
Sharpness	0～100%	フィルターエフェクトの特性を設定します。値が大きいほど、影響を受ける周波数帯は狭くなり、よりシャープな音を作り出されます。
Tone	0～100%	エフェクトのトーンの性質を設定します。
Feedback	0～100%	フィードバックの量を設定します。値を大きくすると、より「金属的」に響く音を作り出します。
Speed	0～10Hz	このノブは、Metalizer エフェクトの変調率を設定します。"Sync" ボタンがオフの場合に、周波数の値を設定できます。"Sync" ボタンがオンの場合には、このノブでテンポの同期に設定する音符を選択します（下記参照）。

パラメーター	値	説明
Tempo Sync ポップアップ	no sync（同期オフ）, 1/ 1～1/32（4分音符～32 分音符）, 1/1～1/32 Triplet（3連4分音符～3 連32分音符）, 1/1～1/ 32 Dotted（付点4分音符 ～付点32分音符）	"Sync" ボタンをクリックすると点灯し、テンポの同期がオンになります。テンポの同期を設定するためのポップアップメニューを表示させるには、"Speed" ノブの上の欄をクリックします。設定した音符単位でテンポに「同期」します。

Tranceformer2



Tranceformer2は、リングモジュレーターエフェクトです。リングモジュレーターによって、ある信号が他の信号に対して振幅変調を適用することができるようになり、結果的に高調波の複雑な歪みが生じます。入力信号の振幅変調のために、可変周波数オシレーターを使用します。2番目のオシレーターを使用して、1番目のオシレーターの周波数を変調することができます。

パラメーター	値	説明
Mix	0～100%	ドライ信号とエフェクト（ウェット）信号のレベルバランスを設定します。Tranceformer を SEND エフェクトとして使用する場合、このフェーダーを最大に設定し、ドライ信号とエフェクト信号のバランスは SEND レベルでコントロールします。
Pitch	1～5000Hz	変調するオシレータの周波数（ピッチ）を設定します。
Speed	0～10Hz	このノブは、Tranceformer エフェクトの変調率を設定します。"Sync" ボタンがオフの場合に、周波数の値を設定できます。"Sync" ボタンがオンの場合には、このノブでテンポの同期に設定する音符を選択します（下記参照）。
On ボタン	オン/オフ	Pitch パラメーターの変調のオン/オフを切り替えます。
波形ボタン	サイン波、矩形波、ノコギリ波、逆ノコギリ波、三角波	ピッチ変調波形を設定します。

パラメーター	値	説明
Stereo/Mono ボタン	Stereo/Mono	エフェクトの出力のステレオ / モノラルを切り替えます。
Tempo Sync ポップアップ	no sync（同期オフ）, 1/1 ～1/32（4分音符～32分音符）, 1/1～1/32 Triplet（3 連4分音符～3連32分音符） , 1/1～1/32 Dotted（付点4 分音符～付点32分音符）	"Sync" ボタンをクリックすると点灯し、 テンポの同期がオンになります。テンポ の同期を設定するためのポップアップ メニューを表示させるには、"Speed" ノ ブの上の欄をクリックします。設定した 音符単位でテンポに「同期」します。

Karlette



Karletteは、「テープディレイ」をシミュレートした4チャンネルのディレイです。、4つの「テープヘッド」は、テンポの同期または特定の時間を設定することができます。各「テープヘッド」のパラメーターは、下記の通りです。

パラメーター	値	説明
Delay	1/32（32分音符）, 1/16（16分音符）, 1/16*（付点16分音符）, 1/8（8分音符）, 1/4T（3連4分音符）, 1/8*（付点8分音符）, 1/4（4分音符）, 1/2T（3連2分音符）, 1/4*（付点4分音符）, 1/2（2分音符）, 3/4（4分音符3つ分）, 1/1（全音符） Sync Off（同期オフ）: 0 ~2 sec.	"Sync" ボタンをオンにすると、Cubase VST のテンポに同期したディレイを音符単位で設定することができます。"Sync" ボタンがオフの場合、自由にディレイタイムを設定することができます。
Volume	Off ~ OdB	ディレイの振幅を設定します。ノブを左に回しきると、ディレイはミュートされます。

パラメーター	値	説明
Damp	0.000～1.000	値が大きいほど、ディレイが「ダンプ」され（高周波数帯が減衰され）、より微妙なエフェクトを生み出します。
Pan	L64～< C >～R64	ディレイのステレオ定位を設定します。
Feedback	0.000～1.000	ディレイのリピート回数を設定します。

加えて、下記の全体のパラメーターがあります。

Dry/Wet	0～100%	ドライ信号とエフェクト（ウェット）信号のレベルバランスを設定します。Karletteをセンドエフェクトとして使用する場合、このフェーダーを最大に設定し、ドライ信号とエフェクト信号のバランスはセンドレベルでコントロールします。
Sync ボタン	オン/オフ	テンポの同期のオン/オフを切り替えます。

- Karlette は、センドエフェクトとしての使用をお勧めします。モノラルチャネルのインサートエフェクトとして使用すると、出力が左チャンネルに限定されます。

